

出題分析			
試験時間	75 分	配点	200 点
大問数	2 題		
分量（昨年比較）	[ 減少 ]	[ 同程度 ]	[ 増加 ]
難易度変化（昨年比較）	[ 易化 ]	[ 同程度 ]	[ 難化 ]
【概評】			
〈現代文〉			
問題文は 2025 年同一日程よりもやや長くなったが、難易度は例年どおり。解答を選びにくく選択肢の設問があった。			
〈古 文〉			
問題文は 2025 年同一日程よりも長くなった。語句や知識問題・内容説明問題など、さまざまな設問が出題されるのは例年どおり。空欄補充問題で図が出題されるなど、やや見慣れない形式の設問が 2 問出題された。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文（評論） 鶴ヶ谷真一 「黙読」  ○行数：132 行□	読書における黙読のあり方について、歴史的推移を踏まえて論じた文章。問一の漢字問題は、例年に比べるとやや難化した。問三の空欄補充問題、問四の語句問題はやさしい。問九の内容説明問題は、傍線部以前で社会的習慣としての黙読のあり方を説明してきた点を押さえる。  ※（昨年度）評論、127 行、15 問（15）	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
	古文（成立年代未詳 ・擬古物語） 作者未詳 『別本八重葎』  ○行数：42 行	音沙汰がなかった大将の君の突然の来訪に対する姫君と、その周囲の人の反応を描いた場面。問二の現代語訳は「めでたてまつる」の主語把握と「もぞ」の訳出に注意する。問十の内容説明問題は「うちも身動ぎたまはねば」に着目する。問十四の内容合致問題の選択肢イは「大将の君の来訪を察知」、選択肢ロは「侍従を呼んで大夫への応対を頼んだ」がそれぞれ不適当。  ※（昨年度）平安・作り物語、31 行、15 問（20）	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西学院大学の問題文は通常 30 字／行（19 行／段、2 段／頁）。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成（設問数・形式・内容）													
大問番号	設問数 (枝間総数 <sup>※</sup> )	選択式 枝間数	記述式 枝間数	漢字	内容説明	理由説明	全文把握	空欄 (脱文) 補充	主語確認	現代語訳	訓読訓点	語句文法知識	その他
一	13問（15）	15		1	3		1	6	1			3	
二	15問（19）	19			2		1	2	1	3		10	

※「枝間総数」は、各設問（小問）に含まれる枝間も個々に数えた場合の全設問（小問・枝間）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝間に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝間数を示す。

### 合格のための学習法

#### 〈現代文〉

硬質な評論の読解に慣れておくこと。各設問では、問題文の正しい理解に加えて、漢字や語句の意味も問われるため、文脈を丁寧に押さえながら読解することを意識するとよいだろう。

#### 〈古文〉

古文知識・正確な読解力のいずれもがバランスよく問われるため、普段の学習においても細かな点までおろそかにせず、丁寧に問題文を読むことを心がけよう。